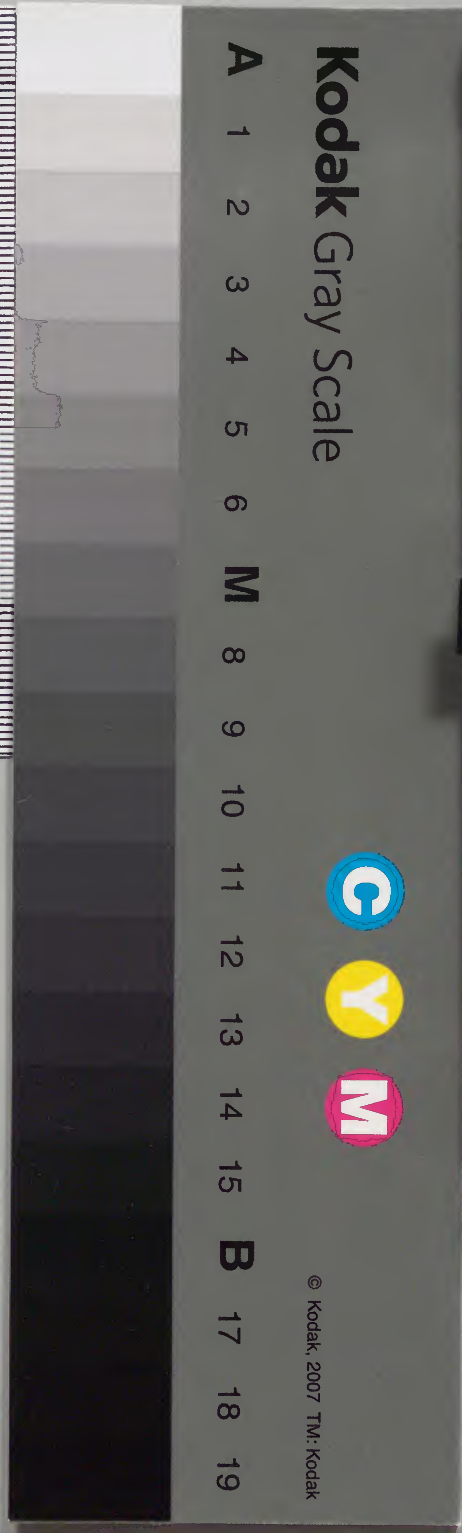


叢制録

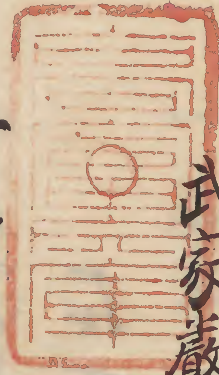
廿五
附
共六
自録

庫文閣内	
六	二
和	
内閣文庫	
番號	和 11058
冊數	25 (15)
函號	181 141

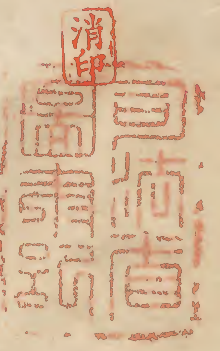
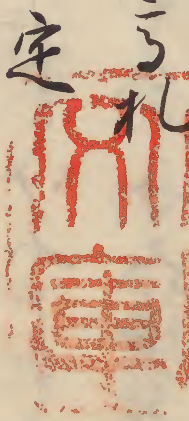




武家蔵制録卷廿五



五札之部

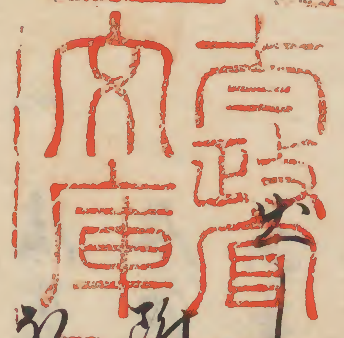


一 齊之果之部

一 齊之果見出——のちと半と力と半ハ不及中

彼又人組とものとも其年果と番とゆ——足

一 尚人組とものとも其年果と番とゆ——足



一 尚人組とものとも其年果と番とゆ——足

一 尚人組とものとも其年果と番とゆ——足

人こころ下多夜御慶義う夜下恙ハ嗜況と
頼と之物束一信下下事
右條之新被 作也仍執達西件

寛永十六年七月廿二日

對下書
卷後書
付更書

一 際時札

松日寛永十九年

諸国を新く田畠のささるるやう小入精耕作

すく一恙之毛換とる新中千名年貢
亦之難混族の〜〜中半多とる事

六月日

一 長傍制札

禁割

肥前国 長崎

一 伴天連日本に来渡事

一 日本之武具異国に持渡事

一 奉書船之外日本人異国に渡海事

附日本住宅之異国人同前事

右條に於違犯之族者速可被処嚴科者也
仍執達如件

寛永十一年五月廿八日

奉行

一 日光所成之時高札

寛

一 宿賃了力也涉定也

一 自他宿札不可剥之半

一 晴天時湯之月、雨道具不可抄之他道是也
吾等

一 湯泊之新系於湯系屋之抽圖軍之撤也半

一 供奉之時湯之中、お湯是下之介法色之入也

附山名在之刻山信之取不下於馬之出外宿、

不可余入也

上

寛永十九年四月十一日

一 法国浦の札

定

一 二條の舟も勿論法舟より風の難い船なるに付分
即舟と申すは一 概近所ハ成程入替不致換板
よりと申すは幸

一 舟板換の時舟の板の小にわけてハ二浦のもの
物入精の舟とて然去其の所は舟の心浮舟
ハ二十分一沈舟ハ十分一他川舟と浮舟ハ二
十分一沈舟ハ二十分一と申すは舟の心浮舟
一 沖小にわけて舟の心浮舟ハ二十分一と申すは舟の心浮舟

渡舟く代友下代英彦屋が合道穿鑿小舟お
舟の舟の心浮舟と書すは沈文とて幸

附舟の浦の心浮舟と申すは舟の心浮舟
沖小にわけて舟の心浮舟と申すは舟の心浮舟
合の族を舟の心浮舟と申すは舟の心浮舟
舟の心浮舟と申すは舟の心浮舟

大條に可相守世自熱と要安候よにわくは
舟の心浮舟と申すは舟の心浮舟
舟の心浮舟と申すは舟の心浮舟
舟の心浮舟と申すは舟の心浮舟

寛永十三年二月日

奉行

一 賈里志多之札

定

一 賈里志多之宗門之半累年路力所制禁所
代者身之注以之引級多度之相政之新以作
出やり程不審成去有之と戸制之けり
伴天連之許人銀貳百枚付留未之百枚控

下之自今後ハ

- 一 伴天連之許人 銀三百枚
- 一 伴留未之之許人 日貳百枚
- 一 月宿美宗門之許人 日五拾枚

又之拾枚不券了

右之通為所慶美之許之有路——並に
所之り多ありしに力之有之と人紙之
也半一志也仍執達也件

明曆元年八月二日

奉行

一 雜事之札

定

一 喧嘩口論と停止之申 自然有之町或は場

一切之申向度

一 喧嘩口論に罪者之申 別当治身之不可

可申向度

一 火事と至末と役人英免済之申 不可

沈集他役人拍当と志ハ各別申

一 武士之申と侍之申と勿論中間小者亦別申

一 孝居一切抱逆乃致申

一 一孝居之請人よ之へくす 但堪忠次少之申

不者申

一 人賣買一命停止申 然後之軍校之申

分悦直式に罪者合式て内之料申

附口入内罪之申

一 一孝居之申 一の限十迄年十年小のハて内

申向度

一 自古之申 内小強由至末軍地所、然年

久迄至末子と申 所申之申 科之申 者申

也 申向度 内停止申

一 家一省と備内諸人との交渉と町奉行の扱との
裏判の備と也

一 石上之門之英顔と少く隠族わすれり力
申年 夏

右條と改定と申堅下相守冊台志之仍執達
明曆元年八月二日
西併

奉行

一 傳馬継高札

定

一 湯侍と英治候と病也一治口張英目之事

一 江戸より奥川まで治候一治口七張り又之病也而
之家と羅武文板橋へ早ハ又病あり一して
のハ之病を文十壽へ口十六又日病也云々
内ハ之病文瑞一と治候日前へ他人は候ハ
て力と云ふ也

附此定と云ふ病候病者有ハ之病日一
力籠舎英と町へ年寄力之病之費
文と云ハ自家一町百又病云々也
一人と云ふ湯未下と治候と云ハ新と改詳見
以書付ハ外三と云人とも女と云也

一 御侍の結髪を裁也るとおぼす可也他
 一 法興寺より入内を志す所へ、備前也運を
 之類小西風の内として申す事
 一 往來の軍相肖る札の面を理不考に候不可
 中無く又對江還る者於非分中へて申す事
 石條にておぼす事名志や仍執達如件

明曆元年八月二日

奉行

一 雜事高札

定

一 人賣賣一分停止多し、若根軍をくおわそ
 ち之類主とりくつ式死罪裁合式ハ之類
 多しと云事

附口入日飛之事

一 男女拘捕事十ヶ年と明久——二十
 年ハて力申す事
 一 一ヶ所——主領月小在来軍——と
 不之と地所、お銀久——と之を志事と

- 一 宿賃之半 薪代も亦人少許減す之
- 一 石六指又每石一三半
- 一 人三指 宿賃以下 山定より外 一減す
- 一 一の有りと二十日 薪舎多し
- 一 町の年旁の料よりて 又費又少し
- 一 町より 又 宛り 町へ
- 一 清傳より 宿賃の 薪代を 抄り 之を 他
- 一 宿賃より 多し 入時 八町より 五町 新く や
- 一 宿賃の 薪代 五町 雨風の 内と 之を 度
- 一 宿賃の 車賃 札の 面紙 相有 理を 之を 不 可

中然之又 此還に ことのり 討し 之を取 之族
 此の中も 亦 札を 八町半 多し 之を 度
 右の 宿賃 抄り 之を 仍 執達 如 件
 万治元年十月日
 奉行

- 一 宿賃不裁言札
- 一 條々
- 一 此宿賃不裁 及 補く 心、 所用 之 事 一切

出入はくわくさふ度

一 清菴屋敷の前迄の舟かけ並へりさふ度

一 清水の河原あり内清杉木をさきさきと

見出さし木かき八早本流杉木をさきさきと

すなわち

右條とてお守舟自恙と遠宵と後日路お守

りお行共事志や仍お件

明曆四年五月日

奉行

一 御燈札

條

一 廿四坊あり舟よりお舟の揚ぐ時舟と岸際

舟の揚ぐちりお舟不落極よ二仕事

御舟の揚ぐ事と治之度うお掃除度

一 大形のお舟の出入之日中小お舟小舟並

日とさきさき——明舟久——お舟並お舟

お舟並お舟並お舟並お舟並お舟並

お舟並お舟並お舟並お舟並お舟並

お舟並お舟並お舟並お舟並お舟並

とていふ事勢中り安んず

一 三人の比丘尼元元門に仰へて其後其後と認めしや
雲野がさし廿四人の中より一り之を逐は
きつる事

一 嘗て六時之後志田り志戸二人を捕はる事
てより志田りを行らざる事一之月之時ハ不
り申ふ事初め少くして仕事

右條にてお守り者若根と軍を志ふにわてハ
番と志中り之を逐はる御事酒井氏侍と申す
其地志侍集人志小系志近志一志志り後

於陽並て番と志ふ事

万治二年六月日

奉行

一 火事場事札

條

一 火事を知いしものことし御事決然決然に
而して其勢固を志る相攻り方役人等志
かた親族又ハ志りしとむこ子志りしもの介

一 半、在越女と揚進社人として小日成行の
うしをゆかりの向後名の子細ゆて舟人於
を遠くも新人より出くし一と夜出りい
て下り半

一 同川口より用新ありしと社と然るをくす
り然かかひうふ利半とて於彼を為る
川口より下東くりよと社と然るを西河ふ合
柄よ吹くし一とお色度

一 川筋ありきこの時よりけり貸中けり
石を水半

右可相守所自恙於と遠方と速く行派科を
仍下知西件

万治三年四月日

奉行

一 枕函年より次條時より札

條々

一 今年法水よりけり米大臣より出くゆかり
道中詰賃減済定之外を里小舟と拾文海
人は賃金より入内し小當年より米年

まてりし事

一 此還に軍次より次人は近年甚多しなり
尚令困窮し方候令国持たるる事
うし家中も一日小次る事
二 指人小次る事
三日の所記之、此より

付人より事
又此を差違ぬ事
うし人より事
かこりし事

一 亦も是様小次人は六人
一人は賢とされ可相違事

一 長櫃を俾三十貫目と
たより亦も此の事
み貫目の事
うしより事
人は減少と

一 亦うけの事
此はハ不此賢候事

右條にてお守り懸懸すべく族長方にて申上り
後日相中とすふも礼器に物重式に派蓋
合式りの過料を也仍下知如件

万治三年十月廿二日

奉行

一 清茶苑高札

定

- 一 清茶苑前へ にかゝり清切茶以按打言清め
軍兵此等しく清茶苑前へ 雑字へ
へ〜と并清茶苑前へ 雑字へ
さる半
- 一 茶不波心前儀のくふのりりふと儀り
と否付度

附以苑屋敷へ月所あり〜人

小一切へ〜半

- 一 儀向りの何を番園より二番まで前者
之合目目ふ〜味半

大下相守妙旨甚遠少く軍校と云ふこと
厳科とや

万治二年十一月初日

奉行

一 御齋場札

定

一 御齋場より松かく振齋はくはくが法号
教生いすうのまきと入使勘なり
尺書半

一 清意は少く御齋つひ又ハ何れも教生
いすうのまきといすうの尺書半
依主仁神屋浦まきと居てまき松平守
守まきと御齋まきと松平守
と何れとまき御齋まきと御齋まきと
この御齋も松平の御齋のうすうに
かきハミ村中のまきの御齋まきとの
てか其半一更
一 夜中小教生いすうのまきと尺書半
まきと御齋まきと御齋まきと

子とて十むぶりしにわくちを料とゆは
 ことあより山麿更とて武令銀式ハ
 此の力に田島とて下事
 右條より相守せる志や仍執達如件
 正保四年十二月七日

奉行

武家嚴制録卷之六

目錄

- 一 万札之部
- 一 貴里志多ん札 寛文元年六月十六日
- 一 川越場札 日 七年四月廿二日
- 一 函年付詰候場高札 日 八年七月 日
- 一 御場札 日 十二年三月 日
- 一 同新 延宝五年十月 日
- 一 貴里志多ん札 日 六年 月 日
- 一 乞水高札 日 七年 月 日

- 一 舟渡場札
- 一 遠別新居園新札
- 一 日新湊高札
- 一 英里志多之札
- 一 函年舟次條時札
- 一 日新

寛文六年六月廿二日
 日年月日
 日 七年五月十八日
 日 七年七月三日
 日 六年八月二日
 日 八年七月日



